

サッカーワールドカップの得点におけるシュートの特徴

三輪優平 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：ドイツ代表と日本代表FW, シュート位置, ポジション

1. 緒言

サッカーは得点を奪い得点を競い合うスポーツでサッカーという競技でフォワード (FW) は絶対欠かせないポジションである。過去の世界大会や各国のリーグにおいてゴールに最も近いポジションでチーム内、最もシュートがうまく、チームで最もゴールを奪う可能性が高いとされている。また、ペナルティエリア (PA) 内でのシュートを重視する傾向がある。PA 内と PA 外でのシュート成功率を比べると PA 外のシュート成功率は著しく下がる (河治, 2013)。これらを踏まえ、本研究ではワールドカップ 2014 ブラジル大会における日本代表、優勝国ドイツ代表のシュートの特徴を明らかにすることを目的とした。

2. 方法

ワールドカップ 2014 ブラジル大会における日本代表、2014 年ワールドカップ優勝国ドイツ代表のグループ予選リーグ 3 試合の全シュートを対象とした。ワールドカップのTV公式映像を確認し、シュートを打った位置、シュートを打った選手のポジション、セットプレーか否かを記録した。

3. 結果と考察

ドイツ代表と日本代表を比較したところ以下の結果が見られた。

①全シュート数は、ドイツ代表が日本代表よりも多い、②全シュート数における FW のシュート割合は、ドイツ代表が日本代表よりも多い、③全シュート数における PA 内でのシュート割合は、ドイツ代表が日本代表よりも多い、④全シュート数におけるセットプレーからのシュート割合は、ドイツ代表と日本代表との間

に差はない。

4. まとめ

ドイツ代表は日本代表に比べ全体のシュート数が多く、FW や PA 内でのシュート割合も高いため、決定力が高く得点が多い。

引用参考文献

河治良幸 (2013) サッカーの見方が 180 度変わるサッカー進化論。ソル・メディア：東京。284。

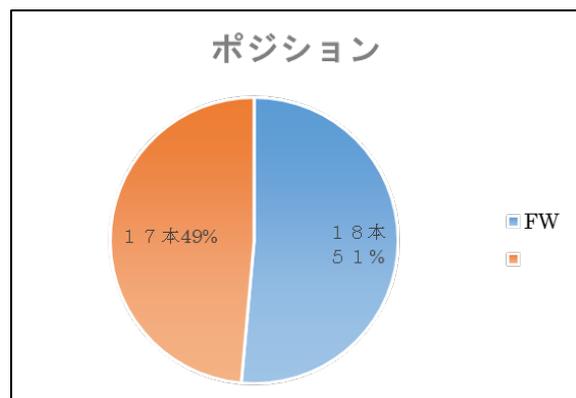


図1 ドイツ代表FWのシュート割合

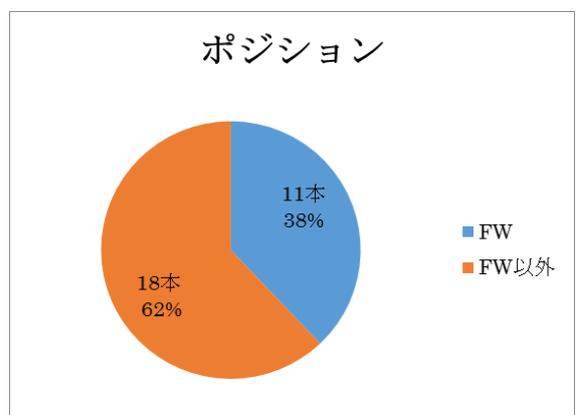


図2 日本代表FWのシュート割合